

年間授業計画

大泉桜 高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科：芸術

科目：音楽 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 3 組～ 5 組

教科担当者：（3組：館 ） （4組：館 ） （5組：館 ） （組： ） （組： ） （組： ）

使用教科書：（MOUSA 1 ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
1 学 期	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。	曲種に応じたさまざまな発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。	○			<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	○	5
	曲想と音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と協働しながら自己のイメージをもって歌唱表現や器楽表現を創意工夫させる。	楽譜の正しい読み方や書き方を身に付け、表現に生かすようにする。		○		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と手拍子や足踏み、コップや机などを打つ音色や奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と手拍子や足踏み、コップや机などを打つ音色や奏法との関わり、及び他者との調和を意識して演奏することに興味をもち、主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	3
	曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。	リコーダーの正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。		○		<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わり、及びアーティキュレーションに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	4
	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫させる。	示されたコードやベースをもとにメロディーをつくったり、パートを重ねたりする。また、発展させたメロディーにコードを付ける。			○	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したイメージと関わりを理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・コード進行の持つ働きや効果とメロディーとの関わりについて関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。 	○	○	○	3
	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聴かせる。	I. ストラヴィンスキーについて学び、楽曲を鑑賞する。			○	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	5
2 学 期	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。	曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫する。	○			<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、及び合唱やヴォイス・アンサンブルなど表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴、及びパートや指揮者の役割に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	8
	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。	調弦や勘所の押さえ方など、三線の正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。			○	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。 	○	○	○	4
	音楽素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、構成上の特徴について、表したいイメージと関わりを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用して音	「虫のこえ」や「鳥たちの饗宴」の例を参考にして、リズム・アンサンブルをつくる。			○	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、構成上の特徴について、表したいイメージと関わりを理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、創作で表している。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 	○	○	○	6

年間授業計画

大泉桜 高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教科： 芸術

科目： 美術 I

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： (1組a：大原) (1組b：舟橋) (2組a.b：久保田) (3組：瀬戸口) (3.4組：吉村) (5組：舟橋)

使用教科書： (高校生の美術 I)

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】 下記の事項を身に付けることができるよう指導する。

【思考力、判断力、表現力等】 下記の事項を身に付けることができるよう指導する。

【学びに向かう力、人間性等】 下記の事項を身に付けることができるよう指導する。

科目 美術 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
表現する楽しさや喜びを味わい、技法の名称や材料や用具の使い方、鑑賞の方法などを理解するとともに、表現に応じた技能で作品を制作することができるようにする。	表現・鑑賞における自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて制作の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	制作に自主的に取り組むとともに、新たな見方や考え方を大切にしようとする。自分の感じ方や価値観に自覚的になるとともに、一人一人の違いや思いを尊重し、互いに学び合おうとする姿勢を身に着ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	●目画像 【知識及び技能】 ・基礎的な鉛筆の使い方を学ぶ ・デッサンの基本的な製作過程を理解する ・自分の顔、頭部をモチーフとして、普段見慣れたものを見つめなおす ・有機的な形のつながりや、自然な質感を捉える 【思考力、判断力、表現力等】 美術 I の目標に準ずる。 【学びに向かう力、人間性等】 美術 I の目標に準ずる。	・鉛筆の削り方、持ち方 ・構図 ・陰影表現 ・形体表現 ・質感表現 ・一人 1 台端末の活用 等	○			次の事項を評価規準とし、獲得状況に応じ採点を行う。 【知識及び技能】 知識では、素描において用いられる技法や用具の名称や使い方を理解できる。技能では、鉛筆を用いて素描表現ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や他者の制作における課題や、課題の解決に有効な技法等の選択について、自己の考えを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 制作に自主的に取り組み、自身や他者の感じ方や考え方を大切にしながら、互いに学び合おうとできる。学習成果を踏まえて、生涯にわたり美術を愛好する姿勢を身に着けることができる。	○	○	○	10
	●ロゴデザイン 【知識及び技能】 ・基礎的なデザインの考え方を学ぶ ・デザインの基本的な製作過程を理解する ・レタリング技法を用いて文字の形を描画できる ・基礎的な色彩のイメージや配色の効果について学ぶ ・アクリル絵の具の平塗り技法を身に着ける 【思考力、判断力、表現力等】 美術 I の目標に準ずる。 【学びに向かう力、人間性等】 美術 I の目標に準ずる。	・デザインの目的 ・レタリング技法 ・アクリル絵の具の混色・塗り ・構図 ・色彩イメージ、配色 ・一人 1 台端末の活用 等		○		次の事項を評価規準とし、獲得状況に応じ採点を行う。 【知識及び技能】 知識では、デザインにおける基本的な考え方や、レタリング技法について理解できる。技能では、レタリング技法とアクリル絵の具の平塗り技法を用いてロゴデザインができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や他者の制作における課題や、課題解決に有効な技法等の選択について、自己の考えを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 制作に自主的に取り組み、自身や他者の感じ方や考え方を大切にしながら、互いに学び合おうとできる。学習成果を踏まえて、生涯にわたり美術を愛好する姿勢を身に着けることができる。	○	○	○	10
2 学 期	●絵画模写 【知識及び技能】 ・基礎的な絵画の歴史、捉え方を学ぶ ・絵画作品の基本的な製作過程を理解する ・アクリル絵の具を用いて絵画作品を模写できる ・絵の具による陰影や形体、質感の表現を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 美術 I の目標に準ずる。 【学びに向かう力、人間性等】 美術 I の目標に準ずる。	・絵画表現 (絵の具による陰影や形体、質感の表現) ・絵画鑑賞 ・構図 ・一人 1 台端末の活用 等	○		○	次の事項を評価規準とし、獲得状況に応じ採点を行う。 【知識及び技能】 知識では、絵画分野における構図や技法、用具の名称や使い方を理解できる。技能では、アクリル絵の具等を用いて絵画表現(模写する絵画のタッチや色彩の再現)ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や他者の制作における課題や、課題解決に有効な技法等の選択について、自己の考えを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 制作に自主的に取り組み、自身や他者の感じ方や考え方を大切にしながら、互いに学び合おうとできる。学習成果を踏まえて、生涯にわたり美術を愛好する姿勢を身に着けることができる。	○	○	○	10
	●キャラクターデザイン 【知識及び技能】 ・デザインのもたらす効果について学ぶ ・キャラクターの基本的な製作過程を理解する ・石粉粘土を用いて粘土塑像できる 【思考力、判断力、表現力等】 美術 I の目標に準ずる。 【学びに向かう力、人間性等】 美術 I の目標に準ずる。	・デザインがもたらす効果 ・デフォルメ ・立体造形(粘土塑像) ・一人 1 台端末の活用 等	○	○		次の事項を評価規準とし、獲得状況に応じ採点を行う。 【知識及び技能】 知識では、デザインがもたらす効果や、それらの使い方を理解できる。技能では、オリジナルのキャラクターをデザインし、石粉粘土で立体表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や他者の制作における課題や、課題解決に有効な技法等の選択について、自己の考えを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 制作に自主的に取り組み、自身や他者の感じ方や考え方を大切にしながら、互いに学び合おうとできる。学習成果を踏まえて、生涯にわたり美術を愛好する姿勢を身に着けることができる。	○	○	○	12
3 学 期	●絵本製作 【知識及び技能】 ・ストーリー性のある絵画表現について、わかりやすく、効果的な画面構成を考える ・描画技法についてはそのいくつかを試し、伝えたいイメージに合ったものを選択できるようにする ・一つのまとまりのある作品として制作する 【思考力、判断力、表現力等】 美術 I の目標に準ずる。 【学びに向かう力、人間性等】 美術 I の目標に準ずる。	・画面構成 ・テーマに合った表現 ・一人 1 台端末の活用 等	○			次の事項を評価規準とし、獲得状況に応じ採点を行う。 【知識及び技能】 知識では、絵本製作における内容構成や技法、用具の名称や使い方を理解できる。技能では、テーマに沿って画面を構成し、アクリル絵の具等を用いて自身が狙った表現ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や他者の制作における課題や、課題解決に有効な技法等の選択について、自己の考えを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 制作に自主的に取り組み、自身や他者の感じ方や考え方を大切にしながら、互いに学び合おうとできる。学習成果を踏まえて、生涯にわたり美術を愛好する姿勢を身に着けることができる。	○	○	○	12
										合計
										54

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教科：芸術

科目：書道 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 3 組～ 4 組

教科担当者：（ 3組：秋元 （4組：秋元 （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ 書 I 光村図書 ）

教科 目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるよ

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を：

科目 書道 I 目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書の美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		漢 仮	漢	仮						
1 学 期	・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。	書道で学習すること・書写から書道へ	○	○	○	○	○	○	○	2
	・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。 ・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をも	漢字の変遷と様々な書体		○	○	○	○	○	○	2
	楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。臨書作品の制作	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑。		○	○	○	○	○	○	10
	牛欄造像記 卷末折込龍門二十品 古典の臨書		○	○	○	○	○	○	8	
2 学 期	行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 仮名漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。	文字の造形を学ぶ【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 卷末折込「蘭亭序」 [コラム]印でわかる古典の真価値 争坐位文稿 風信帖 三筆・三跡の書 仮名の成立と種類		○	○	○	○	○	○	18
					○	○	○	○	○	4
3 学 期	仮名の字源の理解と古典に基づいた用筆を理解する	文字の造形を学ぶ仮名 仮名の筆使い 平仮名 変体仮名 蓬萊切			○	○	○	○	○	6
	漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。②書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。 ④試作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。 ⑤作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く 創作する 好きな言葉を書こう あなたは、どの書が好き？ 表現の幅を広げよう			○	○	○	○	10	
					○	○	○	○	○	合計 60

年間授業計画

大泉様 高等学校 令和5年度（1学年用）教科

外国語

科目

教科：外国語 科目：0

単位数：4 単位

対象学年組：第1学年 1組～5組

教科担当者：（1組：平賀・横山）（2組：平賀・丹野）（3組：丹野・横山）（4組：丹野・横山）（5組：横山・平賀）

使用教科書：（MY WAY English Communication, Zoom総合英語, VALUE1400）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】文法や単語など長文を読むうえでの必要な知識を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】身に着けた知識を相手に伝えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】積極的に英語を使う姿を身に着ける。

科目 0 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
CEFRA1レベルの語彙表現の定着	CEFRA1レベルのコミュニケーションの基礎を作る	積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢の醸成

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書						
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 時制の文法上の役割 【思考力、判断力、表現力等】 相手の意をくみ取る聞き取り 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 時制 ・教材 MY WAY English Communication ・一人1台端末の活用	○	○					○	○	○	10
	B 単元 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意図を相手に伝える	・指導事項 ・教材 ・JETの活用			○	○	○		○	○	○	3
	定期考査							○	○			1
	C 単元 【知識及び技能】 助動詞・受け身の文法上の役割 【思考力、判断力、表現力等】 まとまりのある内容を聞き取る 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 助動詞・受け身・動名詞・不定詞 ・教材 MY WAY English Communication ・一人1台端末の活用	○	○					○	○	○	18
	B 単元 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意図を相手に伝える	・指導事項 ・教材 ・JETの活用			○	○			○	○	○	3
定期考査							○	○			1	
2 学 期	A 単元 【知識及び技能】 完了形・関係詞の文法上の役割 【思考力、判断力、表現力等】 テーマに関する聞き取り 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 完了形・関係詞 ・教材 MY WAY English Communication ・一人1台端末の活用	○	○					○	○	○	12
	B 単元 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意図を相手に伝える	・指導事項 ・教材 ・JETの活用			○	○	○		○	○	○	3
	定期考査							○	○			1
	C 単元 【知識及び技能】 分詞・比較の文法上の役割 【思考力、判断力、表現力等】 まとまりのある内容を聞き取る 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 分詞・比較 ・教材 MY WAY English Communication ・一人1台端末の活用	○	○					○	○	○	18
	B 単元 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意図を相手に伝える	・指導事項 ・教材 ・JETの活用			○	○			○	○	○	3

年間授業計画

大泉桜高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 情報 科目 情報 I

教科： 情報 科目： 情報 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： (1組：山田) (2組：山田) (3組：山田) (4組：山田) (5組：山田)

使用教科書： (【情報 I 713】高等学校 情報 I 第一学習社)

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】情報を活用し問題を発見・解決する方法の技能を習得し、情報社会と人との関わりについて理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 情報社会の問題解決 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 【知識及び技能】情報やITの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報セキュリティについて理解する。情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考える。情報に関する法規や制度及びITの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報セキュリティなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察する。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCを使用する。 一人1台端末も適宜活用する。	次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。 【知識及び技能】情報やITの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報セキュリティについて理解する。情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考える。情報に関する法規や制度及びITの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報セキュリティなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察する。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	○	○	○	23
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	B コミュニケーションと情報セキュリティ 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 【知識及び技能】ITの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解すること。情報セキュリティが人や社会に果たしている役割を理解すること。効果的なコミュニケーションを行うための情報セキュリティの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】ITとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報セキュリティを考えること。効果的なコミュニケーションを行うための情報セキュリティの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善すること。 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCを使用する。 一人1台端末も適宜活用する。	次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。 【知識及び技能】ITの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解すること。情報セキュリティが人や社会に果たしている役割を理解すること。効果的なコミュニケーションを行うための情報セキュリティの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】ITとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報セキュリティを考えること。効果的なコミュニケーションを行うための情報セキュリティの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善すること。 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	D 情報通信ネットワークとデータの活用 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 【知識及び技能】情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解すること。データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。データを提供するための効果的な活用について考えること。データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善すること。 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCを使用する。 一人1台端末も適宜活用する。	次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。 【知識及び技能】情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解すること。データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。データを提供するための効果的な活用について考えること。データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善すること。 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	○	○	○	20
	定期考査			○	○	○	1
合計							

大泉桜高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 総合的な探究の時間 科目 人間と社会

教科： 総合的な探究の時間 科目： 人間と社会 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： 野田、佐々木巧、佐々木直、内田、前澤、南口、阿部愛、井上孝、井上義、下尾

使用教科書： （ 人間としての在り方生き方に関する教科「人間と社会」改訂版教科書 ）

教科 総合的な探究の時間 の目標：

- 【知識及び技能】探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする
- 【学びに向かう力、人間性等】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 人間と社会 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。	社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
事前学習	<p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>上記を指導目標とし、以下の項目を事前学習として行う。</p> <p>対話セッション 自らの生き方考える 福祉について外部講師による指導 国際ボランティアについて外部講師による指導 防災について考える 役割と責任を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、グループワーク、考察、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、を教材とする。 ・一人1台端末も適宜活用する。 	<p>次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。</p> <p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	6
体験グループワーク	<p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>上記を指導目標とし、以下の項目を体験グループワークとして行う。</p> <p>人間関係を築く 支えあう社会 地域社会を築く 働くことの意義 国際平和を築く 絆金の意義 ワーク・ライフ・バランス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCも使用する。 ・一人1台端末も適宜活用する。 	<p>次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。</p> <p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	27
まとめ	<p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>上記を指導目標とし、以下の項目をまとめとして行う。</p> <p>体験グループワークを行って 個人でのまとめ グループでのまとめ 発表 人間と社会を行って</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCも使用する。 ・一人1台端末も適宜活用する。 	<p>次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。</p> <p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	2
合計							

大泉桜高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 総合的な探究の時間 科目 人間と社会

教科： 総合的な探究の時間 科目： 人間と社会 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： 野田、佐々木巧、佐々木直、内田、前澤、南口、阿部愛、井上孝、井上義、下尾

使用教科書：（ 人間としての在り方生き方に関する教科「人間と社会」改訂版教科書 ）

教科 総合的な探究の時間 の目標：

- 【知識及び技能】探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする
- 【学びに向かう力、人間性等】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 人間と社会 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。	社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
事前学習	<p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>上記を指導目標とし、以下の項目を事前学習として行う。</p> <p>対話セッション 自らの生き方考える 福祉について外部講師による指導 国際ボランティアについて外部講師による指導 防災について考える 役割と責任を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、グループワーク、考察、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、を教材とする。 ・一人1台端末も適宜活用する。 	<p>次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。</p> <p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	6
体験グループワーク	<p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>上記を指導目標とし、以下の項目を体験グループワークとして行う。</p> <p>人間関係を築く 支えあう社会 地域社会を築く 働くことの意味 国際平和を築く 絆の意味 ワーク・ライフ・バランス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCも使用する。 ・一人1台端末も適宜活用する。 	<p>次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。</p> <p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	27
まとめ	<p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>上記を指導目標とし、以下の項目をまとめとして行う。</p> <p>体験グループワークを行って 個人でのまとめ グループでのまとめ 発表 人間と社会を行って</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表、等を行い、指導目標について指導する。 ・教科書、ワークシート、自作課題等を教材とする。 ・学校据え置きPCも使用する。 ・一人1台端末も適宜活用する。 	<p>次の事項を身に付けることができることを評価規準とする。</p> <p>【知識及び技能】予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	2
合計							

